

(様式第 10)

帝大病第 号
平成 年 月 日

厚生労働大臣 殿

学校法人 帝京大学
開設者名 理事長 冲永 佳史 (印)

帝京大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 26 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1
氏 名	学校法人 帝京大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

帝京大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒173-8606 東京都板橋区加賀2-11-1	電話 (03) 3964-1211(代)
-----------------------------	----------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 循環器内科 2 心療内科 3 緩和ケア内科 4 腫瘍内科 5 神経内科 6 7	
8 9 10 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無					
外科と組み合わせた診療科名						
1 小児外科	2 消化器外科	3 心臓血管外科	4 形成外科	5 美容外科	6	7
8	9	10	11	12	13	14
診療実績						

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科	2小児科	3整形外科	4脳神経外科	5皮膚科	6泌尿器科	7産婦人科
8産科	9婦人科	10眼科	11耳鼻咽喉科	12放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科		15麻醉科	16救急科			

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無					
歯科と組み合わせた診療科名						
1 歯科口腔外科	2 矯正歯科	3 小児歯科	4	5	6	7
歯科の診療体制						

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1病理診断科	2 リハビリテーション科	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
47 床	床	床	床	1,035 床	1,082 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成 27年 8月 1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	399人	2.91人	401.9人	看護補助者	27人	診療エックス線技師	人
歯科医師	7人	0.1人	7.1人	理学療法士	23人	臨床検査技師	82人
薬 剤 師	66人	1.43人	67.4人	作業療法士	9人	衛生検査技師	人
保 健 師	人	人	人	視能訓練士	18人	その他	人
助 産 師	54人	人	54.0人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看 護 師	1098人	9.5人	1107.5人	臨床工学技士	18人	医療社会事業従事者	6人
准看護師	7人	0.8人	7.8人	栄 養 士	人	その他の技術員	6人
歯科衛生士	6人	0人	6.0人	歯 科 技 工 士	0人	事務職員	163人
管理栄養士	8人	0人	8.0人	診療放射線技師	51人	その他の職員	11人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含まないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成 27年 8月 1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	37 人	眼 科 専 門 医	7 人
外 科 専 門 医	43 人	耳鼻咽喉科専門医	9 人
精神科専門医	7 人	放射線科専門医	10 人
小児科専門医	12 人	脳神経外科専門医	12 人
皮膚科専門医	6 人	整形外科専門医	30 人
泌尿器科専門医	6 人	麻酔科専門医	15 人
産婦人科専門医	17 人	救急科専門医	17 人
		合 計	228 人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	861.6 人	4.0 人	865.6 人
1日当たり平均外来患者数	1,740.0 人	51.4 人	1791.4 人
1日当たり平均調剤数			1985.6 剤
必要医師数			195 人
必要歯科医師数			1 人
必要薬剤師数			29 人
必要(准)看護師数			495 人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日

で除した数を記入すること。

- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	1,506.53 m ² (1人当たり 25.1 m ²)	鉄筋コンクリート	病床数	60床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 178.86 m ² [移動式の場合] 台数 2 台		病床数	12	床	
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] 床積 30.81 m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	19.29m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 低温恒温器,中央実験台,キューリーメータ			
細菌検査室	140.60m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動細菌検査装置,生物顕微鏡,安全キャビネット			
病理検査室	264.05m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) ミクローム,自動固定包埋装置,顕微鏡			
病理解剖室	74.58m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台,臓器撮影台,臓器固定水洗槽			
研究室	3,067.52 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) ドラフトチャンバー等			
講義室	488.90m ²	鉄筋コンクリート	室数	13 室	収容定員	260 人
図書室	3,020.73 m ²	鉄筋コンクリート	室数	2 室	蔵書数	22万冊 程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成26年 4月 1日～平成27年 3月31日	
紹介率	71.9 %	逆紹介率	50.8 %
算 出 根 拠	A: 紹介患者の数	17,508 人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	15,707 人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	4,705 人	
	D: 初診の患者の数	30,865 人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
多焦点眼内レンズを用いた水晶体の再建手術	0人
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
パクリタキセル腹腔内投与及び静脈内投与並びにS-1内服併用療法 腹膜播種又は進行性胃がん(腹水細胞診又は腹腔洗浄細胞診により遊離がん細胞を認めるものに限る。)	5 人
S-1内服投与、オキサリプラチン静脈内投与及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法 腹腔播種を伴う初発の胃がん	3 人
術前のTS-1内服投与、パクリタキセル静脈内及び腹腔内投与並びに術後のパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法	0 人
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法原発性乳がん(エストロゲン受容体が陽性であって、HER2が陰性のものに限る。)	4 人
ペメトレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与併用療法肺がん(扁平上皮肺がん及び小細胞肺がんを除き、病理学的見地から完全に切除された判断されるものに限る。)	3 人
コレステロール塞栓症に対する血液浄化療法 コレステロール血栓症	1 人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	腹膜播種を伴う胃癌に対するS-1+パクリタキセル経静脈・腹腔内併用療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 腹膜播種を伴う胃癌患者を対象として、S-1+パクリタキセル経静脈・腹腔内併用療法を行う			
医療技術名	Parashute Device植込み術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 心不全症例における、左室の壁運動不良部分に対する治療であるParashute Deviceは、すでに海外で治験が行われ、良好な成績が報告されている。本邦での治験開始に先立ち、当院で同器具植込みを行い、安全に治療を終了した。			
医療技術名	ロボット補助下腎部分切除術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 手術ロボット(ダヴィンチ)を用いた腹腔鏡下腎部分切除術			
医療技術名	ロボット補助下膀胱全摘除術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 手術ロボット(ダヴィンチ)を用いた腹腔鏡下膀胱全摘除術+骨盤内リンパ節郭清術			
医療技術名	多焦点眼内レンズ	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 白内障の手術において、遠近両用の眼内レンズを挿入する。			
医療技術名	好塩基球ヒスタミン遊離反応によるアレルギー同定	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 アレルギー患者の好塩基球ヒスタミン遊離試験は、血液を用いてアレルギー反応を体外で起こさせる試験法であり、患者に直接アレルギーを投与する必要がないので安全にアレルギーを同定できるという特徴を有する。一部の食物アレルギーに対してのみ保険適応がある。本試験法を用いて、本学の研究室内で、アナフラキシー既往を有する患者に対して本検査を行った。			
医療技術名	好塩基球活性化試験によるアレルギー同定	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 アレルギー患者を対象とする好塩基球活性化試験(Basophil Activation Test, BAT)は血液を用いて細胞の鋭敏な活性化を好塩基球表面のCD203c発現で判定し、患者に直接アレルギーを投与する必要がないので安全にアレルギーを同定できるという特徴を有する。アナフィラキシー既往を有するが保険適用のある検査では原因を特定できない患者に対して本検査を行った。			
医療技術名	経カテーテル大動脈弁植込み術	取扱患者数	44人
当該医療技術の概要 弁尖の硬化変性に起因する重度大動脈弁狭窄症(慢性維持透析を行っている患者に係るものに限る。)本医療で使用される機器は、狭窄した大動脈弁に植え込まれる人工弁(以下、生体弁)とそれを適正位置まで送達するデリバリーシステムで構成される。生体弁はステンレス製のステント状フレームにウシの心臓の膜弁(三葉の組織弁)がマウントされたものである。デリバリーシステムは、経皮的冠動脈形成術と同様にバルーンカテーテルとシースイントロドューサおよびダイレクター等で構成される。 留置方法には経大腿アプローチと経心尖アプローチの2方法ある。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	362 人	・膿疱性乾癬	8 人
・多発性硬化症	97 人	・広範脊柱管狭窄症	4 人
・重症筋無力症	166 人	・原発性胆汁性肝硬変	73 人
・全身性エリテマトーデス	396 人	・重症急性膵炎	4 人
・スモン	1 人	・特発性大腿骨頭壊死症	38 人
・再生不良性貧血	66 人	・混合性結合組織病	34 人
・サルコイドーシス	56 人	・原発性免疫不全症候群	7 人
・筋萎縮性側索硬化症	37 人	・特発性間質性肺炎	23 人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	211 人	・網膜色素変性症	73 人
・特発性血小板減少性紫斑病	109 人	・プリオン病	0 人
・結節性動脈周囲炎	62 人	・肺動脈性肺高血圧症	2 人
・潰瘍性大腸炎	275 人	・神経線維腫症	29 人
・大動脈炎症候群	15 人	・亜急性硬化性全脳炎	0 人
・ビュルガー病	22 人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	2 人
・天疱瘡	27 人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	1 人
・脊髄小脳変性症	43 人	・ライソゾーム病	7 人
・クローン病	113 人	・副腎白質ジストロフィー	2 人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0 人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0 人
・悪性関節リウマチ	13 人	・脊髄性筋委縮症	0 人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	201 人	・球脊髄性筋委縮症	4 人
・アミロイドーシス	4 人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	54 人
・後縦靭帯骨化症	21 人	・肥大型心筋症	11 人
・ハンチントン病	2 人	・拘束型心筋症	0 人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	51 人	・ミトコンドリア病	0 人
・ウェゲナー肉芽腫症	23 人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	1 人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	44 人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0 人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	24 人	・黄色靭帯骨化症	5 人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0 人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	98 人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・総合周産期特定集中治療室管理料
・特定機能病院入院基本料	・新生児治療回復室入院医療管理料
・臨床研修病院入院診療加算	・小児入院医療管理料2
・救急医療管理加算	・
・超急性期脳卒中加算	・
・妊産婦緊急搬送入院加算	・
・診療録管理体制加算2	・
・急性期看護補助体制加算	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1・2	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・患者サポート体制充実加算	・
・ハイリスク妊婦管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・退院調整加算	・
・救急搬送患者地域連携紹介加算	・
・救急搬送患者地域連携受入加算	・
・データ提出加算	・
・救命救急入院料3・4	・
・特定集中治療室管理料3・4	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・植込型除細動器移行期加算	・画像診断管理加算1・2
・高度難聴指導管理料	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・がん性疼痛緩和指導管理料	・CT撮影及びMRI撮影
・がん患者指導管理料1・2・3	・冠動脈CT撮影加算
・外来緩和ケア管理料	・外傷全身CT加算
・院内トリアージ実施料	・大腸CT撮影加算
・ニコチン依存症管理料	・心臓MRI撮影加算
・地域連携診療計画管理料	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・がん治療連携計画策定料	・外来化学療法加算1
・がん治療連携管理料	・無菌製剤処理料
・肝炎インターフェロン治療計画料	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・薬剤管理指導料	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・医療機器安全管理料1・2・(歯科)	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・歯科治療総合医療管理料	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・造血器腫瘍遺伝子検査	・がん患者リハビリテーション料
・HPV核酸検出及び簡易ジェノタイプ判定	・集団コミュニケーション療法料
・検体検査管理加算(Ⅰ・Ⅳ)	・歯科口腔リハビリテーション料2
・植込型心電図検査	・精神科ショート・ケア「大規模なもの」
・時間内歩行試験	・精神科デイ・ケア「大規模なもの」
・胎児心エコー法	・抗精神病特定薬剤治療管理料 (治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る)
・ヘッドアップティルト試験	・医療保護入院等診療料
・皮下連続式グルコース測定	・エタノールの局所注入(甲状腺)
・神経学的検査	・透析液水質確保加算2
・補聴器適合検査	・一酸化窒素吸入療法
・ロービジョン検査判断料	・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算
・小児食物アレルギー負荷検査	・組織拡張期による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・内服・点滴誘発試験	・骨移植術(軟骨移植術を含む)(自家培養軟骨移植術に限る)
・センチネルリンパ節生検(併用・単独)	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・腹腔鏡下肝切除術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・体外衝撃波膀胱石破碎術
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・網膜再建術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込骨導補聴器交換術	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)(歯科)	・腎腫瘍凝固・焼却術(冷凍凝固によるもの)
・下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)(歯科)	・生体腎移植
・乳がんセンチネルリンパ節加算1・2	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・人工尿道括約筋植込・置換術
・経皮的冠動脈形成術	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の5及び6に掲げる手術
・経皮的冠動脈ステント留置術	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術(胃瘻造設時嚥下機能評価加算)
・経皮的大動脈弁置換術	・輸血管管理料 I
・経皮的中隔心筋焼灼術	・貯血式自己血輸血管管理体制加算
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・自己生体組織接着剤作成術
・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・内視鏡手術用施設機器加算
・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術(レーザーシースを用いるもの)	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・歯周組織再生誘導手術
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・補助人工心臓	・麻酔管理料(I)・(II)
・植込型補助人工心臓(拍動流型)	・放射線治療専任加算
・植込型補助人工心臓(非拍動流型)	・外来放射線治療加算
・経皮的大動脈遮断術	・高エネルギー放射線治療
・ダメージコントロール手術	・1回線量増加加算
・体外衝撃波胆石破碎術	・強度変調放射線治療(IMRT)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・画像誘導放射線治療(IGRT)	・
・体外照射呼吸性移動対策加算	・
・直線加速器による放射線治療(定位放射線治療)	・
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	・
・病理診断管理加算2	・
・口腔病理診断管理加算2	・
・クラウン・ブリッジ維持管理料	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	肝胆膵、消化管、悪性リンパ腫、腎生検、呼吸器、剖検報告会 上記6種類の症例検討会を月1回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 37 例 / 剖検率 3.48%

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補	委
別紙1参照				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	

計

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部署	金額	補助元又委託元
気管支喘息に対する喘息死の予防や自己管理手法の普及に関する研究	長瀬洋之	内科	¥1,000,000	補委 厚生労働省
サリドマイド胎芽病患者の健康、生活実態の諸問題に関する研究	長瀬洋之	内科	¥900,000	補委 厚生労働省
シアル酸の修飾による好酸球性炎症制御機構の解明	鈴木真穂	内科	¥2,000,000	補委 公益財団法人上原記念生命科学財団
細胞表面糖鎖を修飾するシアル酸の進化とアレルギー性炎症の関連性に関する研究	鈴木真穂	内科	¥2,000,000	補委 公益財団法人内藤記念科学振興財団
抗HIV療法の適正化のための研究	太田康男	内科	¥2,500,000	補委 厚生労働省
国内で流行するHIVとその薬剤耐性株の動向把握に関する研究	太田康男	内科	¥1,500,000	補委 厚生労働省
新規敗血症バイオマーカー-endocanの統合的解析	太田康男	内科	¥1,000,000	補委 文部科学省
IgG4関連疾患の診断基準並びに治療指針の確立を目指した研究	滝川 一	内科	¥500,000	補委 厚生労働省
難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究	滝川 一	内科	¥20,500,000	補委 厚生労働省
難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究	田中 篤	内科	¥1,000,000	補委 厚生労働省
関節リウマチにおける自然炎症の関与の解明	河野 肇	内科	¥5,850,000	補委 文部科学省
関節リウマチにおける自然炎症の関与の解明	河野 肇	内科	¥3,510,000	補委 文部科学省
Notchリガンド分子阻害による関節炎抑制機序の解明	河野 肇	内科	¥130,000	補委 文部科学省
HDLの動脈硬化における抗炎症効果の解明	河野 肇	内科	¥1,716,000	補委 文部科学省
尿細管イオン輸送体の機能発現を制御する機構の解明	種本雅之	内科	¥1,170,000	補委 文部科学省
新規敗血症バイオマーカー-endocanの統合的解析	北沢貴利	内科	¥1,300,000	補委 文部科学省
インターロイキン1βの皮膚線維芽細胞に対する影響に関する研究	白藤尚毅	内科	¥2,080,000	補委 文部科学省
インターロイキン1βの皮膚線維芽細胞に対する影響に関する研究	岡 陽子	内科	¥0	補委 文部科学省
インターロイキン1βの皮膚線維芽細胞に対する影響に関する研究	白崎良輔	内科	¥0	補委 文部科学省

小計19

研究課題名	研究者氏名	所属部署	金額	補助元又委託元
新規制御性T細胞の誘導促進による自己免疫疾患治療法開発	岡本明子	内科	¥1,820,000	補委 文部科学省
腎血管特異的なRNA干渉による腎移植後拒絶反応回避に向けた戦略的研究	内田俊也	内科	¥65,000	補委 文部科学省
翻訳後修飾による細胞選択的な鋳質コルチコイド受容体制御系の全容解明	柴田 茂	内科	¥1,430,000	補委 日本学術振興会
腎臓における翻訳後修飾の制御異常と生活習慣病への関与の検討	柴田 茂	内科	¥2,000,000	補委 住友財団
生活習慣病による進行性腎障害に関わるエピジェネティック異常の解明と診断・治療への応用	柴田 茂	内科	¥2,000,000	補委 科学技術振興機構
慢性腎臓病診療におけるリン酸化ミネラルコルチコイド受容体の意義	柴田 茂	内科	¥2,000,000	補委 万有科学振興国際交流財団
翻訳後修飾による新たな腎臓機能制御機構の解明	柴田 茂	内科	¥3,000,000	補委 持田記念医学薬学振興財団
ミネラルコルチコイド受容体局所制御の分子機構と臨床的意義の解明	柴田 茂	内科	¥1,000,000	補委 かなえ医薬振興財団
ベーチェット病に関する調査研究	菊地弘敏	内科	¥400,000	補委 厚生労働省
メディアドクターの取り組みによる医療健康報道の質向上に向けた研究	渡邊清高	内科	¥1,820,000	補委 文部科学省
産業衛生の現場における認知行動療法プログラムを活用したうつ病の予防・改善の研究	中尾睦宏 竹内武昭	心療内科	¥800,000	補委 文部科学省
エビデンスに基づいた神経免疫疾患の早期診断基準・重症度分類・治療アルゴリズムの確立	園生雅弘	神経内科	¥450,000	補委 厚生労働省
免疫性ニューロパチーの治療反応性予測に基づく有効な治療戦略の構築	園生雅弘	神経内科	¥500,000	補委 厚生労働省
神経系におけるジストログリカンN末端ドメインの未知機能と病態関与の解明	松村喜一郎	神経内科	¥1,400,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
α -ジストロカノパチーによる筋ジストロフィーに対する糖転移酵素補充療法の開発	斉藤史明	神経内科	¥1,846,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
筋ジストロフィー関連疾患の基礎的診断・治療開発研究	斉藤史明	神経内科	¥1,000,000	補委 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
上皮間葉転換 (EMT) による幹細胞誘導リプログラミングの分子機構の解明	松村喜一郎	神経内科	¥39,000	補委 文部科学省
上皮間葉転換 (EMT) による幹細胞誘導リプログラミングの分子機構の解明	斉藤史明	神経内科	¥182,000	補委 文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部署	金額	補助元又委託元
SIRT1活性化物質レスベラトロールの筋萎縮に対する長期的効果の検討	斉藤史明	神経内科	¥130,000	補委 文部科学省
マウス代償性肺成長におけるNotch/TTF-1シグナルの幹細胞ニッチへの関与	高橋祐介	外科	¥1,300,000	補委 文部科学省
凍結融解壊死療法後樹状細胞腫瘍内注入療法の最適化	川村雅文	外科	¥1,924,000	補委 文部科学省
凍結融解壊死療法後樹状細胞腫瘍内注入療法の最適化	高橋祐介	外科	¥312,000	補委 文部科学省
凍結融解壊死療法後樹状細胞腫瘍内注入療法の最適化	松谷哲行	外科	¥247,000	補委 文部科学省
腹膜播種を伴う胃癌に対するS-1+パクリタキセル経静脈・腹腔内併用療法／S-1+シスプラチン併用療法による第Ⅲ相臨床試験	福島亮治	外科	¥1,610,000	補委 厚生労働省
胃癌の腹腔遊離癌幹細胞による腹膜再発および治療効果予測診断法の開発	福島亮治	外科	¥910,000	補委 文部科学省
マウスの心臓移植モデルによる拒絶反応抑制に関わる漢方薬の作用機序の解析	新見正則	外科	¥1,560,000	補委 文部科学省
大腸癌の循環癌幹細胞による分子標的薬治療効果予測診断と臨床応用	山田英樹	外科	¥0	補委 文部科学省
切除不能膀胱癌に対する標準治療の確立に関する研究	佐野圭二	外科	¥500,000	補委 杏林大学医学部内科 科学腫瘍内科 古瀬純司
25-A-10 陽子線治療の有効性検証を目的とした多施設臨床試験の実施とその体制整備	佐野圭二	外科	¥300,000	補委 国立研究開発法人 国立がん研究センター 第一東病院 副院長 放射線治療課長 (粒子線医学開発分野長兼務) 秋元哲夫
急性胆管炎診療における血清プロカルシトニン濃度測定の有効性の検討	三浦文彦	外科	¥650,000	補委 科学研究費助成事業
急性胆管炎診療における血清プロカルシトニン濃度測定の有効性の検討	佐野圭二	外科	¥130,000	補委 科学研究費助成事業
急性胆管炎診療における血清プロカルシトニン濃度測定の有効性の検討	天野穂高	外科	¥130,000	補委 科学研究費助成事業
急性胆管炎診療における血清プロカルシトニン濃度測定の有効性の検討	豊田真之	外科	¥130,000	補委 科学研究費助成事業
急性胆管炎診療における血清プロカルシトニン濃度測定の有効性の検討	和田慶太	外科	¥130,000	補委 科学研究費助成事業

小計16

研究課題名	研究者氏名	所属部署	金額	補助元又委託元
大腸癌血清エクソソーム由来microRNAの癌バイオマーカーとしての意義	橋口陽二郎	外科	¥1,300,000	補委 文部科学省
抗BTLA抗体とHMG-CoA還元酵素阻害薬による冠動脈内膜肥厚抑制効果の解析	原 真範	心臓血管外科	¥390,000	補委 文部科学省
抗BTLA抗体とHMG-CoA還元酵素阻害薬による冠動脈内膜肥厚抑制効果の解析	内山雅照	心臓血管外科	¥390,000	補委 文部科学省
医療事故におけるJust Culture（正義・公正の文化）を支える法制度の構築を目指して—医療事故の原因分析・再発防止推進のための法制度	木戸浩一郎	産婦人科	¥200,000	補委 厚生労働省
分子プロファイリングによる新規標的の同定を通じた難治がん治療法開発	中川俊介	産婦人科	¥1,500,000	補委 独立行政法人科学技術振興機構より東京大学へ委託
血清ビオチン測定法の確立、血清ビオチンの基準値の設定およびビオチン欠乏症の診断基準の確立	佐藤恭弘 小川英伸 児玉浩子 元山華穂子 船越政史 若林健二	小児科	¥500,000	補委 公益財団法人森永奉仕会
Menkes病の新生児マスキング方法の確立と早期治療効果の評価（2014年度）	高橋和浩 小川英伸 児玉浩子	小児科	¥1,200,000	補委 公益財団法人母子健康協会
小児敗血症臓器障害への治療戦略：糖質コルチコイドを標的とするβ2アドレナリン受容体療法	中村明夫	小児科	¥1,800,000	補委 公益財団法人川野小児奨学財団
小児腎炎の非侵襲的組織診断方法の開発：MRI拡散テンソル画像による組織診断	高橋和浩	小児科	¥1,690,000	補委 文部科学省
小児腎炎の非侵襲的組織診断方法の開発：MRI拡散テンソル画像による組織診断	中村明夫	小児科	¥390,000	補委 文部科学省
ミトコンドリア異常症における呼吸鎖複合体アセンブリーの解析	三牧正和	小児科	¥1,560,000	補委 文部科学省
ミトコンドリア病の調査研究	三牧正和	小児科	¥500,000	補委 厚生労働科学研究費補助金
ミトコンドリア病診療の質を高める、レジストリシステムの構築、診断基準・診療ガイドラインの策定および診断システムの整備を行う臨床研究	三牧正和	小児科	¥500,000	補委 厚生労働科学研究費補助金
国内における食品を介した種々の放射性物質による曝露量の評価	児玉浩子	小児科	¥1,600,000	補委 厚生労働省
機能的有機銅錯体を用いたMenkes病に対する新しい治療法の開発	児玉浩子	小児科	¥520,000	補委 文部科学省
敗血症腎傷害への治療戦略：糖質コルチコイドを標的とするβ2アドレナリン受容体療法	中村明夫	小児科	¥2,080,000	補委 文部科学省

小計16

研究課題名	研究者氏名	所属部署	金額	補助元又委託元
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	阿部哲士	整形外科	¥350,000	補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構委託研究開発 費
既存血管系再構築による大型臓器再生法の開発	権太浩一	形成外科	¥780,000	補委 文部科学省
既存血管系再構築による大型臓器再生法の開発	平林慎一	形成外科	¥130,000	補委 文部科学省
既存血管系再構築による大型臓器再生法の開発	山岡尚世	形成外科	¥130,000	補委 文部科学省
既存血管系再構築による大型臓器再生法の開発	浅野裕子	形成外科	¥130,000	補委 文部科学省
霊長類モデルを用いたドルーゼン生成機序の解明と予防薬の開発	溝田 淳	眼科	¥390,000	補委 独立行政法人日本 学術振興会
遺伝性網膜疾患カニクイザルの作成とその病理学的解析	溝田 淳	眼科	¥390,000	補委 独立行政法人日本 学術振興会
重粒子線による悪性腫瘍の治療研究	溝田 淳	眼科	¥100,000	補委 独立行政法人放射 線医学総合研究所 重粒子医科学セン ター
経角膜網膜電気刺激の臨床応用	篠田 啓	眼科	¥520,000	補委 独立行政法人日本 学術振興会
老人性難聴に対する詳細な聴取評価法と聴覚認知訓練の開発	伊藤 健	耳鼻咽喉科	¥600,000	補委 厚生労働科学研究 費
難治性腎疾患に関する調査研究	武藤智	泌尿器科	¥300,000	補委 厚生労働省
統合失調症の社会機能測定ツールの開発—社会脳を実世界で評価する	池淵恵美	精神神経科	¥1,180,000	補委 文部科学省
統合失調症に対する認知リハビリテーションの開発と効果検証に関する研究	池淵恵美	精神神経科	¥550,000	補委 厚生労働省
東日本大震災の被災地における地域精神保健医療システムの再構築に資する中長期支援に関する研究	池淵恵美	精神神経科	¥0	補委 厚生労働省
多発家系・一卵性双生児不一致例の解析による精神疾患・発達障害の新規候補遺伝子同定	栃木 衛	精神神経科	¥1,000,000	補委 文部科学省
新規自閉症発症関連遺伝子の探索と発症メカニズムの解明	栃木 衛	精神神経科	¥260,000	補委 文部科学省

小計16

研究課題名	研究者氏名	所属部署	金額	補助元又委託元
ソマトスタチン受容体の細胞内動態に関与する蛋白の同定と新規治療法の開発	松野 彰	脳神経外科	¥1,690,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
成人成長ホルモン分泌不全症患者の診断・治療及び追跡調査に関する研究	松野 彰	脳神経外科	¥1,500,000	補委 公益財団法人 成長科学協会
小児腎炎の非侵襲的組織診断方法の開発：MRI拡散テンソル画像による組織診断	古井 滋	放射線科	¥130,000	補委 文部科学省
小児腎炎の非侵襲的組織診断方法の開発：MRI拡散テンソル画像による組織診断	神田知紀	放射線科	¥390,000	補委 文部科学省
データ包絡分析法応用による個別化予防医療確立への挑戦	中田善規	麻酔科	¥200,000	補委 科学研究費補助金
腰椎骨盤リズムの動作解析によるヒップスパイン症候群の病態解明と治療法開発	緒方直史	リハビリテーション科	¥3,640,000	補委 科学研究費補助金
三次元動作解析を用いた頸部可動域計測法の開発と嚥下リハビリテーションへの応用	緒方直史	リハビリテーション科	¥1,950,000	補委 科学研究費補助金
細胞周期制御の観点から骨吸収・骨形成を同時に制御する分子を探る	緒方直史	リハビリテーション科	¥195,000	補委 科学研究費補助金
循環器疾患等の救命率向上に資する効果的な救急蘇生法の普及啓発に関する研究	坂本哲也	救急科	¥16,000,000	補委 厚生労働省
救急医療体制の推進に関する研究	坂本哲也	救急科	¥130,000	補委 厚生労働省
脳死患者の家族に選択肢提示を行う際の対応のあり方に関する研究	坂本哲也	救急科	¥500,000	補委 厚生労働省
重症循環器疾患等に関する医療内容の評価に資するデータレジストリシステムの構築	坂本哲也	救急科	¥0	補委 厚生労働省
運動器外傷診療の質向上を目指した探索的研究～初療からリハビリテーション、社会復帰まで～	坂本哲也	救急科	¥632,000	補委 厚生労働省
定量化した毛細血管再充満時間によるショックの予測	坂本哲也	救急科	¥130,000	補委 文部科学省
重粒子線がん治療臨床研究班肝腫瘍臨床研修	近藤福雄 他	病理診断科	¥100,000	補委 放射線医学総合研究所 理事長 米倉義晴

小計15
合計100

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った

研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	別紙2参照			
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
～				
70				
～				

計

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	雑誌名	題名	発表者	所属部門
1	Int Arch Allergy Immunol 164:1;27-29,2014	Allergy to Formaldehyde: Basophil Histamine-Release Test Is Useful for Diagnosis	Tanaka Y, Nakase Y, Yamaguchi M, Sugimoto N, Ohara K, Nagase H, Ohta K	内科 (呼吸器)
2	Allergol Int 63:Suppl;49-51,2014	Modulation of human basophil degranulation by geranylgeranyl compounds	Nakase Y, Yamaguchi M, Sugimoto N, Nagase H, Ohta K	内科 (呼吸器)
3	Nucleosides, Nucleotides, and Nucleic Acids.33: 434-438, 2014	Hyperuricemia in hematologic malignancies is caused by an insufficient urinary excretion.	Yoko Oka, Haruko Tashiro, Ryosuke Sirasaki, Tadashi Yamamoto, Nobu Akiyama, Kazuo Kawasaki, Naoki Shirafuji, Shin Fujimori.	内科 (血液)
4	Exp Ther Med. 2014 Sep;8(3):851-855	Lopinavir inhibits insulin signaling by promoting protein tyrosine phosphatase 1B expression	Kitazawa T, Yoshino Y, Suzuki S, Koga I, Ota Y.	内科 (感染症)
5	J Clin Med Res. 2014 Jun;6(3):215-7	Multifocal Cellulitis due to Disseminated Neisseria Gonorrhoeae in a male Patient	Yoshino Y, Abe M, Seo K, Koga I, Kitazawa T, Ota Y	内科 (感染症)
6	Proc Natl Acad Sci U S A. 2014 Oct 28;111(43):15556-61. doi: 10.1073/pnas.1418342111. Epub 2014 Oct 13.	Angiotensin II signaling via protein kinase C phosphorylates Kelch-like 3, preventing WNK4 degradation.	柴田 茂	内科 (腎臓)
7	Am J Physiol Renal Physiol 2014 Dec 15;307(12):F1313-22. doi: 10.1152/ajprenal.00521.2014. Epub 2014 Oct 15.	Combination of ACE inhibitor with nicorandil provides further protection in chronic kidney disease.	白石武司	内科 (腎臓)
8	Case Rep Nephrol. 2014;2014:569047. doi: 10.1155/2014/569047. Epub 2014 Nov 23.	Successful treatment of infectious endocarditis associated glomerulonephritis mimicking c3 glomerulonephritis in a case with no previous cardiac disease.	川守田洋介	内科 (腎臓)
9	J Clin Hypertens (Greenwich). 2014 Oct;16(10):746-53. doi: 10.1111/jch.12412. Epub 2014 Sep 29.	Effects of the N/L-type calcium channel blocker cilnidipine on nephropathy and uric acid metabolism in hypertensive patients with chronic kidney disease (J-CIRCLE study).	内田俊也	内科 (腎臓)
10	PLoS One.9(7):e102152, 2014	Induction of AhR-mediated gene transcription by coffee	Ishikawa T, Takahashi S, Morita K, Teramoto T	内科 (内分泌代謝 糖尿病)

番号	雑誌名	題名	発表者	所属部門
11	Intern Med 53, 1037-1042, 2014	Proton pump inhibitor use is associated with spontaneous bacterial peritonitis in patients with liver cirrhosis.	Miura K, Tanaka A, Adachi M, Yamamoto T, Takikawa H	内科 (消化器)
12	Clin J Gastroenterol 7:506-509, 2014	Endoscopic removal of a denture with clasps impacted in the ileocecum.	Abe K, Miki A, Okamura T, Shimada K, Yamamoto T, Aiso M, Tanaka A, Kita H, Kuyama Y, Takikawa H	内科 (消化器)
13	J Hepatobiliary Pancreat Sci 22, 230-236, 2015	Clinical profiles of patients with primary sclerosing cholangitis in the elderly	Tanaka A, Tazuma S, Okazaki K, Tsubouchi H, Inui K, Takikawa H.	内科 (消化器)
14	Randomized comparison between polymer-free versus polymer-based paclitaxel-eluting stent: two-year final clinical results.	Circ Cardiovasc Interv. 2014 Jun;7(3):312-21. doi: 10.1161/CIRCINTERVENTIONS.113.000800. Epub 2014 May 6	Shiratori Y1, Cola C1, Brugaletta S1, Alvarez-Contreras L1, Martín-Yuste V1, del Blanco BG1, Ruiz-Salmeron R1, Díaz J1, Pinar E1, Martí V1, García-Picart J1, Sabaté M2.	内科
15	Nihon Naika Gakkai Zasshi. 2014 Jun 10;103(6):1273-80.	[Lung cancer: progress in diagnosis and treatments. Topics: II. Diagnosis and examination; 2. Diagnostic imaging].	Honda T, Seki N	内科
16	Journal of Cardiology ;64(5):331-333,2014	Antiplatelet therapy during perioperative period: Double-edged sword.	<u>Kozuma K</u>	循環器内科
17	Circ J. 2014;78(12):2926-34. Epub 2014 Oct 21.	Prasugrel, a third-generation P2Y12 receptor antagonist, in patients with coronary artery disease undergoing elective percutaneous coronary intervention.	Isshiki T., Kimura T., Ogawa H., Yokoi H., Nanto S., Takayama M., Kitagawa K., Nishikawa M., Miyazaki S., Ikeda Y., Nakamura M., Saito S.	循環器内科
18	Psychotherapy and Psychosomatics 83:120-121, 2014.	Definition of psychosomatic medicine and the applicability of DSM-IV-TR to outpatients visiting a Japanese psychosomatic clinic.	<u>Nakao M</u> , Takeuchi T, Fricchione GL.	心療内科
19	Muscle Nerve 2014; 50 (2): 186-92.	A new pitfall in a sensory conduction study of the lateral antebrachial cutaneous nerve: Spread to the radial nerve.	<u>Oishi C</u> , Sonoo M, Kurono H, et al.	神経内科

小計9

番号	雑誌名	題名	発表者	所属部門
20	Hum Mol Genet 2014; 23 (17): 4543-58.	Overexpression of LARGE suppresses muscle regeneration via down-regulation of insulin-like growth factor 1 and aggravates muscular dystrophy in mice. Hum Mol Genet, 23(17): 4543-4558, 2014.	Saito F, Kanagawa M, Ikeda M, et al.	神経内科
21	Mult Scler 2014; 20 (10): 1407-8.	Sudden onset of sleep due to hypothalamic lesions in neuromyelitis optica spectrum disorder positive for anti-aquaporin-4 antibody.	Okuma H, Matsumura K, Hatanaka Y, et al.	神経内科
22	Neurol Sci 2015; 36 (1): 173-4.	Restless legs syndrome heralding an acute exacerbation of multiple sclerosis.	Kanbayashi T, Kamiya H, Hokkoku K, et al.	神経内科
23	Clin Neurophysiol. 2014 Jul;125(7):1491-5. doi: 10.1016/j.clinph.2013.11.041. Epub 2014 Jan 12.	Ultrasound and neurophysiological correlation in common fibular nerve conduction block at fibular head.	Tsukamoto H, Granata G, Coraci D, Paolasso I, Padua L	神経内科
24	Oncol Rep. 2015 Feb;33(2):573-82.	Clinical significance of mmicroRNA-21 as a biomarker in each Dukes' stage of colorectal cancer.	Fukushima Y, Iinuma H, Tsukamoto M, Matsuda K, Hashiguchi Y.	外科 (下部消化器外科)
25	Transplantation 15;97:301-9, 2014	An Agonistic Anti-BTLA mAb (3C10) Induced Generation of IL-10 Dependent Regulatory CD4+ T Cells and Prolongation of Murine Cardiac Allograft.	Masateru Uchiyama ^{1,2,3} , Xiangyuan Jin ^{3,4} , Hironori Matsuda ² , Hisashi Bashuda ² , Tomohiro Imazuru ¹ , Tomoki Shimokawa ¹ , Hideo Yagita ² and Masanori Niimi ³	¹ Department of Cardiovascular Surgery, Teikyo University Hospital, Tokyo, Japan. ² Department of Immunology, Juntendo University Hospital, Tokyo, Japan. ³ Department of Surgery, Teikyo University, Tokyo, Japan. ⁴ Department of Cardiovascular and Thoracic Surgery, Harbin Medical University, Harbin, China.

番号	雑誌名	題名	発表者	所属部門
26	Transplant International 28(3):352-62, 2015	Treadmill Exercise Induces Murine Cardiac Allograft Survival and Generates Regulatory T cell.	Masateru Uchiyama ^{1,2} , Xiangyuan Jin ^{2,3} , Enzhi Yin ^{2,3} , Tomoki Shimokawa ¹ and Masanori Niimi ²	¹ Department of Cardiovascular Surgery, Teikyo University, Tokyo, Japan ² Department of Surgery, Teikyo University, Tokyo, Japan ³ Department of Cardiovascular and Thoracic Surgery, The 4th Affiliated Hospital of Harbin Medical University, Harbin, China

小計7

番号	雑誌名	題名	発表者	所属部門
27	Surgery Today 2014; 44(4): 712-5	Successful management of postoperative pain with pregabalin after thoracotomy	<u>Matsutani N</u> , Kawamura M	外科 (呼吸器)
28	Surg Today. 2014 Nov 28.	Pregabalin reduced post-surgical pain after thoracotomy: a prospective, randomized controlled trial	<u>Matsutani N</u> , Dejima H, Takahashi Y, Kawamura M	外科 (呼吸器)
29	Surg Today. 2015 Feb 7.	Mediastinal hemorrhage due to ectopic parathyroid hyperplasia with long-term hemodialysis: report of a case	<u>Matsutani N</u> , Kawamura M, Dejima H, Takahashi Y	外科 (呼吸器)
30	BMC Cancer. 2015 Feb 18;15:65. doi: 10.1186/s12885-015-1068-5.	Significant correlation between urinary N(1), N(12)-diacetylspermine and tumor invasiveness in patients with clinical stage IA non-small cell lung cancer.	<u>Takahashi Y</u> , Horio H, Sakaguchi K, Hiramatsu K, Kawakita M	外科 (呼吸器)
31	Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2015 Apr 15. pii: ivv085. [Epub ahead of print]	Predictors of post-recurrence survival in patients with non-small-cell lung cancer initially completely resected.	<u>Takahashi Y</u> , Horio H, Hato T, Harada M, Matsutani N, Kawamura M	外科 (呼吸器)
32	Ann Surg Oncol. 2015 Jul 22. [Epub ahead of print] DOI: 10.1245/s10434-015-4735-5	Prognostic Significance of Preoperative Neutrophil-Lymphocyte Ratios in Patients with Stage I Non-small Cell Lung Cancer After Complete Resection.	<u>Takahashi Y</u> , Horio H, Hato T, Harada M, Matsutani N, Morita S, Kawamura M	外科 (呼吸器)
33	World J Surg. 2014 Dec;38(12):3152-62.	Evaluation of QOL After Proximal Gastrectomy Using a Newly Developed Assessment Scale (PGSAS-45)	<u>Inada T</u> , Yoshida M, Ikeda M, Yumiba T, Matsumoto H, Takagane A, Kunisaki C, Fukushima R, Yabusaki H, Nakada K	外科 (上部消化管) Department of Surgery, Tochigi Cancer Center
34	World J Surg. 2014 Apr;38(4):897-901.	Recurrent laryngeal nerve monitoring during thoracoscopic esophagectomy	<u>Ikeda Y</u> , Inoue T, Ogawa E, Horikawa M, Inaba T, Fukushima R	外科 (上部消化管)
35	Jpn J Clin Oncol 2014 Jul 16;44(9):876-879	Observational Study of Axilla Treatment for Breast Cancer Patients with 1-3 Positive Micrometastases or Macrometastases in Sentinel Lymph Nodes	<u>Oba M</u> , Jinno H, et al	外科 (乳腺) Department of Biostatistics and Epidemiology, Yokohama City University

小計9

番号	雑誌名	題名	発表者	所属部門
36	Cancer Sci 2014 Jun;105(6):675-682	Loss of B-cell translocation gene 2 expression in estrogen receptor-positive breast cancer predicts tamoxifen resistance	<u>Takahashi M</u> , Jinno H, et al	Department of Surgery, Keio University School of Medicine
37	Mol Cancer 2014 May 5;13(1):102	Bevacizumab terminates homeobox B9-induced tumor proliferation by silencing microenvironmental communication	<u>Hoshino Y</u> , Jinno H, et al	外科 (乳腺) Department of Surgery, Keio University School of Medicine
38	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2015 Apr;22(4):294-300. doi: 10.1002/jhbp.198. Epub 2014 Dec 29.	Evaluation of portal vein invasion of distal cholangiocarcinoma as borderline resectability.	Miura F., Sano K., Amano H., Toyota N., Wada K., Yoshida M., Hayano K., Matsubara H., Takada T.	外科
39	Surg Today. 2014 Nov;44(11):2015-21. doi: 10.1007/s00595-013-0783-2. Epub 2013 Nov 20.	Re-sentinel node biopsy after previous breast and axillary surgery.	Ikeda T	外科
40	Int J Clin Exp Pathol. 2015 Mar 1;8(3):3354-7. eCollection 2015.	A case of invasive Langerhans cell histiocytosis localizing only in the lung and diagnosed as pneumothorax in an adolescent female.	Dejima H., Morita S., Takahashi Y., Matsutani N., Iinuma H., Kondo F., Kawamura M.	外科
41	Asian Cardiovasc Thorac Ann. 2015 Mar;23(3):338-40. doi: 10.1177/0218492314531586. Epub 2014 Apr 9.	Thoracoscopic enucleation for intrapulmonary lipoma: Case report.	Takahashi Y, Shima T, Harada M, Horio H	外科
42	Am J Sports Med.42(6) 1441- 47,2014	Accelerated Versus Traditional Rehabilitation After Anterior Talofibular Ligament Reconstruction for Chronic Lateral Instability of the Ankle in Athletes.	<u>Miyamoto W.</u> ,Takao M.,Yamada K., Matsushita T	整形外科
43	Arch Orthop Trauma Surg.134 (10) 1461-67.2014	Arthroscopic Broström repair with Gould augmentation via an accessory anterolateral port for lateral instability of the ankle.	<u>Matsui K.</u> ,Takao M.,Miyamoto W., Innami K.,Matsushita T	整形外科

番号	雑誌名	題名	発表者	所属部門
44	Biomaterials35(27)7800-10,2014	Bone regeneration in a massive rat femur defect through endochondral ossification achieved with chondrogenically differentiated MSCs in a degradable scaffold.	Harada N.,Watanabe Y.,Sato K., Abe S., Matsushita T., et al.	整形外科

小計9

番号	雑誌名	題名	発表者	所属部門
45	Knee.21 (5)936-43,2014	Partial harvesting technique in anterior cruciate ligament reconstruction with autologous semitendinosus tendon to prevent a postoperative decrease in deep knee flexion torque.	Sasahara J., Takao M., Miyamoto W., Oguro K., Matsushita T	整形外科
46	Foot Ankle Clin. 2015 Mar;20(1):139-47. doi: 10.1016/j.fcl.2014.10.005. Epub 2014 Dec 15.	Hindfoot endoscopy for posterior ankle impingement syndrome and flexor hallucis longus tendon disorders.	Miyamoto W., Takao M., Matsushita T.	整形外科
47	BMC Neurol. 2014 Jul 23;14:150.	Subarachnoid hemorrhage secondary to a ruptured middle cerebral aneurysm in a patient with osteogenesis imperfecta: A case report	Hirohata T, Miyawaki S, Mizutani A, Iwakami T, Yamada S, Nishido H, Suzuki Y, Miyamoto S, Hoya K, Murakami M, Matsuno A	帝京大学ちば総合医療センター病院 脳神経外科 帝京大学医学部脳神経外科(板橋)
48	Med Mol Morphol 2014, 47:1-7	Molecular status of pituitary carcinoma and atypical adenoma that contributes the effectiveness of temozolomide	Matsuno A, Murakami M, Hoya K, Yamada SM, Miyamoto S, Yamada S, Son JH, Nishido H, Ide F, Nagashima H, Sugaya M, Hirohata T, Mizutani A, Okinaga H, Ishii Y, Tahara S, Teramoto A, Osamura RY	帝京大学ちば総合医療センター病院 脳神経外科 帝京大学医学部脳神経外科(板橋)
49	Neurol Med-Chir (Tokyo) 2014, 54:966-973	Treatment of pituitary carcinomas and atypical pituitary adenomas: a review	Hirohata T, Ishii Y, Matsuno A	脳神経外科
50	J Neurosurg: Pediatrics 2014, 14:311-315	High-dose methotrexate monotherapy followed by radiation for CD30-positive, anaplastic lymphoma kinase-1-positive anaplastic large-cell lymphoma in the brain of a child	Furuya K, Takanashi S, Ogawa A, Takahashi Y, Nakagomi T	脳神経外科
51	Plast Reconstr Surg 2014 Jul;134(1):50e-58e	The in vivo effect of esculetin ointment and esculetin-mixed Zyderm for Zyderm	Yamaoka H, Nishizawa S, Matsui M, Gonda K, Hirabayashi S, Hoshi K, Yamaoka K.	形成外科 (美容外科)
52	J Matern Fetal Neonatal Med. 27(15):1604-1606, 2014	Decreased fetal movements at home were recorded by a newly developed fetal movement recorder in a case of non-reassuring fetal status.	Ryo E, Kamata H and Seto M	産婦人科

小計8

番号	雑誌名	題名	発表者	所属部門
53	Obstet Gynaecol Res. doi: 10.1111/jog.12538. [Epub ahead of print] (2014)	Case of minimal deviation adenocarcinoma: Possible clinical link to lobular endocervical glandular hyperplasia as its origin.	Sugihara T, Nakagawa S, Sasajima Y, Matsumoto Y, Takeshita S and Ayabe T	産婦人科
54	Pediatrics International. 57 (1):72-78, 2015	Genotypes of the renin-angiotensin system and glucocorticoid complications.	中村明夫	小児科
55	Clin Exp Dermatol. 2015 Mar;40(2):156-9. doi: 10.1111/ced.12503. Epub 2014 Dec 5.	Verruciform xanthoma: report of three patients with comparative dermoscopic study.	Ohnishi T., Shiraishi H., Fukaya S., Tanaka T., Watanabe S.	皮膚科
56	Dermatol 41: 124-134, 2014	Clinically verrucous and histologically discohesive melanoma. A case report with dermoscopic and immunohistochemical observations. Australasian	大西 誉光	皮膚科
57	Int J Urol. 2015 May;22(5):439-46. doi: 10.1111/iju.12714. Epub 2015 Mar 17.	Feasibility and accuracy of computational robot-assisted partial nephrectomy planning by virtual partial nephrectomy analysis.	Isotani S, Shimoyama H, Yokota I, China T, Hisasue S, Ide H, Muto S, Yamaguchi R, Ukimura O, Horie S.	泌尿器科
58	Anticancer Res. 2015 Mar;35(3):1703-8.	Circulating pigment epithelium-derived factor (PEDF) is associated with pathological grade of prostate cancer.	Ide H, Yamagishi S, Lu Y, Sakamaki K, Nakajima A, Horiuchi A, Kitamura K, Hisasue S, Muto S, Yamaguchi R, Horie S.	泌尿器科
59	Int J Urol. 2015 May;22(5):490-4. doi: 10.1111/iju.12727. Epub 2015 Feb 28.	Maintenance monotherapy with gemcitabine after standard platinum-based chemotherapy in patients with advanced urothelial cancer.	Muto S, Abe H, Noguchi T, Sugiura S, Kitamura K, Isotani S, Ide H, Yamaguchi R, Kamai T, Horie S.	泌尿器科
60	Curr Opin Urol. 2015 May;25(3):225-9. doi: 10.1097/MOU.0000000000000163.	Opportunities for targeted focal treatment in Japan.	Kimura M, Muto S, Horie S.	泌尿器科
61	Clin Exp Nephrol. 2015 Feb 7. [Epub ahead of print]	The effect of tolvaptan on autosomal dominant polycystic kidney disease patients: a subgroup analysis of the Japanese patient subset from TEMPO 3:4 trial.	Muto S, Kawano H, Higashihara E, Narita I, Ubara Y, Matsuzaki T, Ouyang J, Torres VE, Horie S.	泌尿器科

小計9

番号	雑誌名	題名	発表者	所属部門
62	Clin Exp Nephrol. 2015 Jan 25. [Epub ahead of print]	Novel prediction model of renal function after nephrectomy from automated renal volumetry with preoperative multidetector computed tomography (MDCT).	Isotani S, Shimoyama H, Yokota I, Noma Y, Kitamura K, China T, Saito K, Hisasue SI, Ide H, Muto S, Yamaguchi R, Ukimura O, Gill IS, Horie S.	泌尿器科
63	Prostate Int. 2014 Dec;2(4):188-95. doi: 10.12954/PI.14067. Epub 2014 Dec 30.	Feasibility of multiparametric prostate magnetic resonance imaging in the detection of cancer distribution: histopathological correlation with prostatectomy specimens.	Kitamura K, Muto S, Yokota I, Hoshimoto K, Kaminaga T, Noguchi T, Sugiura S, Ide H, Yamaguchi R, Furui S, Horie S.	泌尿器科
64	Int J Clin Oncol. October 2014, Volume 19, Issue 5, pp 928-934	Isomorphic red blood cells using automated urine flow cytometry is a reliable method in diagnosis of bladder cancer. International Journal of Clinical Oncology	Muto S, Sugiura SI, Nakajima A, Horiuchi A, Inoue M, Saito K, Isotani S, Yamaguchi R, Ide H, Horie S	泌尿器科
65	Reproductive Medicine and Biology. 2014: 13:185-92	Role of varicocele repair for male infertility in the era of assisted reproductive technologies.	Kimura M, Nagao K.	泌尿器科
66	International journal of urology 21 776-780 2014, Aug	Usefulness of proton magnetic resonance spectroscopy in predicting positive biopsy after high-intensity focused ultrasound for treatment of localized prostate cancer.	Muto S, Kaminaga T, Horiuchi A, Kitamura K, Saito K, Isotani S, Yamaguchi R, Ide H, Furui S, Horie S	泌尿器科
67	Prostate Int. 2014 Sep;2(3):147-51. doi: 10.12954/PI.14056. Epub 2014 Aug 21.	Circulating tumor cell count during zoledronic acid treatment in men with metastatic prostate cancer: a pilot study.	Ide H, Lu Y, Tanaka T, Wakumoto Y, Kitamura K, Muto S, Yamaguchi R, Masumori N, Horie S.	泌尿器科
68	PLoS One 2015 Feb 23;10(2)	The incidence of double hypoglossal canal in Japanese: evaluation with multislice computed tomography.	Kanda T, Kiritoshi T, Osawa M, Toyoda K, Oba H, Kotoku J, Kitajima K, Furui S.	放射線科

小計7

番号	雑誌名	題名	発表者	所属部門
69	Oncology. 2014;87 Suppl 1:37-49. doi: 10.1159/000368144. Epub 2014 Nov 22. Review.	Pathological diagnosis of benign hepatocellular nodular lesions based on the new World Health Organization classification.	Kondo F, Fukusato T, Kudo M.	病院病理
70	Pathology. 2014 Oct;46 Suppl 2:S24. doi: 10.1097/01.PAT.0000454131.66588.38.	Hepatobiliary/Pancreas Pathology: SY11-2 CLINICOPATHOLOGICAL FEATURES AND PROGNOSIS OF MUCIN-PRODUCING BILE DUCT TUMOR AND MUCINOUS CYSTIC TUMOR OF THE LIVER: A MULTI-INSTITUTIONAL STUDY BY JAPAN BILIARY ASSOCIATION.	Kondo F, Nakanuma Y, Kubota K, Hachiya H, Miyazaki M, Nagino M, Yamamoto M, Isayama H, Tabata M, Kinoshita H, Kamisawa T, Inui K.	病院病理
71	Ophthalmic Res 51(3):117-23. doi: 10.1159/000356688. Epub 2014 Jan 7.	Comparisons of pattern visually evoked potentials elicited by different response time liquid crystal display screens.	Matsumoto C.S.a, b · Shinoda K.a · Matsumoto H.b · Funada H.c · Sasaki K.a · Minoda H.a · Mizota A.a aDepartment of Ophthalmology, Teikyo University School of Medicine, Tokyo, bMatsumoto Eye Clinic, Tokushima, and cEngineering Department, Tomey Corporation, Nagoya, Japan	眼科
72	Biomed Res Int. 2014:586060. doi: 10.1155/2014/586060. Epub 2014 Mar 27.	Effect of intraocular lens diameter implanted in enucleated porcine eye on intraocular pressure induced by scleral depression.	Gaku Terauchi,1 Celso Soiti Matsumoto,1,2 Kei Shinoda,1 Harue Matsumoto,2 and Atsushi Mizota1	眼科

小計4

番号	雑誌名	題名	発表者	所属部門
73	Case Rep Med. 2014;2014:786578. doi: 10.1155/2014/786578. Epub 2014 Apr 30.	Pars Plana Vitrectomy Combined with Focal Endolaser Photocoagulation for Idiopathic Macular Telangiectasia	Gaku Terauchi, 1 Celso Soiti Matsumoto, 1, 2 Kei Shinoda, 1,* Harue Matsumoto, 2 Yutaka Imamura, 3 Emiko Watanabe,1 Takaaki Kondo, 1 and Atsushi Mizota 1 1Department of Ophthalmology, Teikyo University School of Medicine, 2Matsumoto Eye Clinic, Tokushima 3Department of Ophthalmology, Teikyo University School of Medicine, University Hospital Mizonokuchi, Kanagawa	眼科
74	J Vis. 2014 Aug 5;14(9). pii: 2. doi: 10.1167/14.9.2.	What monitor can replace the cathode-ray tube for visual stimulation to elicit multifocal electroretinograms?	Matsumoto CS1, Shinoda K2, Matsumoto H3, Seki K2, Nagasaka E4, Iwata T5, Mizota A2. 1Department of Ophthalmology, Teikyo University School of Medicine, Tokyo, Japan Matsumoto Eye Clinic, Tokushima, Japan. 2Department of Ophthalmology, Teikyo University School of Medicine, Tokyo, Japan. 3Matsumoto Eye Clinic, Tokushima, Japan. 4Engineering Department, Mayo Corporation, Aichi, Japan. 5National Institute of Sensory Organs, National Tokyo Medical Center, Tokyo, Japan.	眼科

小計2

番号	雑誌名	題名	発表者	所属部門
75	Biomed Res Int. 2014;2014:606951	Pattern visual evoked potentials elicited by organic electroluminescence screen.	<p>Celso Soiti Matsumoto,1,2 Kei Shinoda,1 Harue Matsumoto,2 Hideaki Funada,3 Kakeru Sasaki,1 Haruka Minoda,1 Takeshi Iwata,4 and Atsushi Mizota1</p> <p>1Department of Ophthalmology, Teikyo University School of Medicine, 2Matsumoto Eye Clinic, 3Engineering Department, Tomey Corporation, 4National Institute of Sensory Organs, National Tokyo Medical Center,</p>	眼科
76	J Vis. 2014 Sep 5;14(11). pii: 4. doi: 10.1167/14.11.4.	Binocular interaction of visually evoked cortical potentials elicited by dichoptic binocular stimulation.	<p>Matsumoto CS1, Nakagomi R2, Matsumoto H1, Minoda H3, Shinoda K3, Iwata T4, Mizota A3.</p> <p>1Department of Ophthalmology, Teikyo University School of Medicine, 2Department of Orthoptics, Faculty of Medical Technology Teikyo University, Tokyo, Japan. 3Department of Ophthalmology, Teikyo University School of Medicine, Tokyo, Japan. 4National Institute of Sensory Organs, National Tokyo Medical Center, Tokyo, Japan.</p>	眼科
77	Br J Ophthalmol doi:10.1136/bjophthalmol- 2014-306252	Recovery of photoreceptor inner and outer segment layer thickness after reattachment of rhegmatogenous retinal detachment	<p>Gaku Terauchi1, Kei Shinoda1, Celso Soiti Matsumoto1,2, Emiko Watanabe1, Harue Matsumoto1,2, Atsushi Mizota1</p> <p>1Department of Ophthalmology, Teikyo University School of Medicine, Tokyo, Japan 2Matsumoto Eye Clinic, Tokushima, Japan</p>	眼科

小計3

番号	雑誌名	題名	発表者	所属部門
78	Resuscitation (85巻) 2014 Jun;85(6):762-8. doi: 10.1016/j.resuscitation.2014.01.031. Epub 2014 Feb 12.	Extracorporeal cardiopulmonary resuscitation versus conventional cardiopulmonary resuscitation in adults with out-of-hospital cardiac arrest:A prospective observational study	<u>Tetsuya</u> <u>Sakamoto</u> , Naoto Morimura, Ken Nagao, Yasufumi Asai, Hiroyuki Yokota, Satoshi Nara, Mamoru Hase, Yoshio Tahara, Takahiro Atsumi, SAVE-J Study Group	救急科
79	BioMedical engineering OnLine (13巻Suppl 1) 2014;13 Suppl 1:S3. doi: 10.1186/1475-925X-13- S1-S3. Epub 2014 Feb 28.	Automated CT detection of intestinal abnormalities and ischemia for decision making in emergency medicine	<u>Taichiro</u> <u>Tsunoyama</u> , Tuan D Pham, Takashi Fujita, Tetsuya Sakamoto	救急科
80	Computer Methods and Programs in Biomedicine (117巻1号) 2014 Oct;117(1):30-9. doi: 10.1016/j.cmpb.2014.05.00 3. Epub 2014 May 29.	Identification of intestinal wall abnormalities and ischemia by modeling spatial uncertainty in computed tomography imaging findings	<u>Tsunoyama T</u> , Pham TD, Fujita T, Sakamoto T	救急科

小計3
合計80

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

<内科>

- 肺癌を見落とさないための胸部単純X線の読影力とは
- 空洞状陰影と呈した肺腺癌の一例
- DICの診断と治療
- 甲状腺、副甲状腺の超音波診断
- T₄と少量T₃の併用、経鼻胃管投与で救命しえた粘液水腫昏睡-高齢女性2症例
- 僧帽弁形成術後5年経過して破砕赤血球増加を伴わなかった高度溶血性貧血の一例
- チアマゾール(MMI)で発熱、肝障害を突発したバセドウ病、1型糖尿病の一例
- 重度の代謝性アシドーシスを合併した低栄養患者の一例
- IgA腎症の経過中に多発リンパ節腫大で発症したIgG4関連疾患の一例

<心療内科>

- 心療内科の外来症例やコンサルテーションリエゾン症例について心身症としての臨床上の意義や診療ポイントについてまとめた。

<緩和ケア内科>

- がん性疼痛の機序、評価及びWHO方式のがん性疼痛医療法を含むがん性疼痛・呼吸困難、消化器症状等の身体症状・不安、抑うつ及びせん妄等に対する緩和ケアについて
- がん医療におけるコミュニケーション技術、全人的な緩和ケアについて
- ASCO緩和ケアシンポジウムにおける概要説明

<神経内科>

- 病棟の問題症例を中心に受け持ち医などが、最新の文献上の知見などを調べて発表し、皆で知識を共有すると共に診療方針を検討する
- シニアの医師が臨床症候、疾患、電気整理などについてのクルグスを行い、ラウンドテーブル形式で皆の知識・技能向上を図る。

<外科>

- 消化器外科手術患者に対する最新の周術期管理法
- 乳腺外科医を中心に、形成外科医、腫瘍内科医、放射線科医、病理医、放射線科技師、薬剤師、乳がん看護認定看護師などがチームとなって、乳腺疾患に関する情報を共有・検討する。
- 乳腺疾患を中心に、最新のトピックスに関するデータや論文等を収集・議論・検討する。
- 腹腔鏡手術のトレーニングとして、シミュレーション手術や摘出臓器を用いたドライボを十分経験させた後に、全身麻酔下での大型動物を用いた内視鏡手術のトレーニングを行った。
- 呼吸器外科・呼吸器内科・腫瘍内科から症例を持ち寄って、更に病理、放射線科、病棟薬剤師が加わって症例の診断方法、今後の治療方針、病理学的な所見等について総合的に討議する。
- 毎週月曜日にその週の手術予定患者と翌週の手術予定患者について、診断、合併症の有無とその対策、周術期管理法、術式、追加的治療の必要性等について討議する。
- 手術症例についての診断、手術術式、病理結果に関する消化器内科との検討
- 腹腔鏡手術症例についての、腹腔鏡手術ビデオを見ながらの手術手技の検討会
- 大腸疾患の内視鏡診断に関する講義とシミュレーターを用いた大腸内視鏡挿入手技、治療手技の研修
- 肝胆膵移植外科の専門的治療の研修

<心臓血管外科>

- 冠動脈バイパスに使用する内胸動脈採取に関して、実際のブタを開胸し超音波メスを使用し採取を行い、採取方法を実践・教授する。
- ブタ心臓を利用し、担当により心臓解剖を解説、その後、実際に1テーブルに4-5人で指導者を付け、冠動脈バイパス術、弁置換術、人工血管置換術を実践する。
- 欧州・米国・国内の循環器ガイドラインを供覧し診療に反映する。
- エコー技師と共に術前・術後エコー画像を供覧し、術中所見を反映する。

<産婦人科>

- 周産期・婦人科腫瘍・生殖内分泌・女性ヘルスケアに関する症例検討と臨床研究の報告。
(胎児腹壁破裂・初発から17年後に再発したと考えられた子宮頸癌の一例・多発脳梗塞をきたした卵巣癌の一例・当科において、子宮内膜癌に対する腹腔鏡下子宮全摘および骨盤リンパ郭清を施行した症例・円錐切除にて摘出し得たと考えられる分葉状頸管腺過形成・当科における手術に至った卵巣卵管膿瘍の10例等)
- 周産期・新生児に関する産科と新生児科合同の症例検討(双胎妊娠、胎児発育遅延、切迫早産、胎児奇形に関する周産期管理)
- 婦人科悪性腫瘍に対する放射線科と婦人科合同の症例検討(子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌の初発あるいは再発症例に関する、放射線療法の適応と治療効果に関する検討)

<小児科>

○小児科のみならず臨床的に関連する周辺専門領域(平成26年度は小児外科、皮膚科、放射線科)の専門医より小児臨床の周辺疾患について学ぶ。

○当院小児科に入院している症例について、各疾患分野の専門医を中心に症例検討をすることを通して疾患の理解を深める。

○小児アレルギー分野、内分泌分野における知識を深める。

<整形外科>

○整形外科における最新の知見を学び、その理解を深めて今後の研究および臨床に役立てる。

○整形災害外科における最新の知見を学び、その理解を深めて今後の研究および臨床に役立てる。

<形成外科>

○術前カンファで手術のシュミレーション等を行い術後カンファで術中、術後の問題点を検討する。

○褥瘡の発生事例を検討し、院内での有病率低下に努めるとともに、もちこみの褥瘡も多いため、褥瘡に対するケアの確認を行っている。

<眼科>

○症例検討、症例報告等(炭素イオン線照射後に黄斑円孔を称した2症例・エルロチニブ塩酸塩内服中に見られた角膜潰瘍・内服手術中における眼内温度の測定・外転神経麻痺の原因と術式および術後経過による矯正効果の評価)

<耳鼻咽喉科>

○CT・MRI・PET等の画像についての症例検討、ならびに放射線治療を施行する症例についての臨床的検討を行っている。

<皮膚科>

○臨床写真と病理結果の検討

○皮膚科の検査法、診断法、各疾患に対する治療法など。

<泌尿器科>

○PSAからロボット手術まで当科の取組について、ロボティックサージェリーに関して、テストステロンとメタボリック症候群～前立腺癌ホルモン療法を含めて～、高齢化を踏まえたこれからの泌尿器科疾患と内科疾患の関わりについて 等

<精神神経科>

○個人の精神療法、集団スーパービジョン、接触障害カンファレンス、精神科病棟の管理について、家族介入スーパービジョン、うつ病の認知行動療法、不安障害の認知行動療法、統合失調症の認知行動療法 等

<脳神経外科>

○入院・外来患者・手術術後の検討、帝京大学3病院・研修施設・関連施設による研究発表と症例検討、悪性神経膠腫に関する演習、開頭術と脳血管内治療のモデルを用いた手術シュミレーション、悪性脳腫瘍の手術、に関する演習、脳神経外科・内分泌内科・小児科による、下垂体疾患に関する研究発表 等

<放射線科>

○乳癌の症例検討、肺癌の症例検討

<麻酔科>

○手術麻酔症例、GICU管理症例の中から、スタッフが教育的価値があると考えた症例を提示し参加者で検討する。(例:覚醒遅延、術中心筋虚血、NGチューブ誤挿入、呼吸器外科麻酔における特殊な気道確保、術後に発覚した甲状腺機能亢進症、周術期ステロイドカバー等)

○毎日行っている術後回診を1ヶ月単位で総括し、麻酔合併症の発症、機序、対策について検討を加え学習する。(例:術後末梢神経障害、PONVらの発生頻度調査、対策についての学習)

○日常スタッフが後期研修医を指導する中で、「一度は系統的な講義が必要である」と感じた項目について、講義と質疑応答を組み合わせた勉強会を行う。(例:心臓麻酔の特殊性、重篤な合併症を持つ手術患者への麻酔計画、中心静脈確保手技、帝王切開の麻酔、気道確保困難症例へのアプローチなど)

○麻酔科専門医試験受験を兼ね、学会でもホットな話題や、新しい麻酔手技などを、若手麻酔科医が自主的に勉強会を開催する。専門医クラスのスタッフがアドバイザーとして参加、必要に応じてレクチャーを加える。(例:経食道心エコー勉強会、末梢神経ブロック講習会等)

○麻酔科基礎分野研究の報告、臨床症例から研究対象の抽出などを定期的に行っている。(ラットを用いた脳内発痛物質研究報告、人工心肺中の血液凝固に関する臨床研究等)

<リハビリテーション科>

○リハビリテーションの最新知見について、発表する。

<歯科口腔外科>

○顎変形症治療について、術前3Dシュミレーションなど治療計画について

○入院・全身麻酔症例の検討

○歯科インプラントの3Dシュミレーション、ラジオグラフィックガイドについて

<救急科>

○院外講師を招き若手医師に必須の画像・読影スキルを学ぶ。

○死亡症例と合併症発生症例について経過をレビューし死亡と合併症を防ぎえたか検討する。

○救急医療に関する最近の研究論文を批判的に吟味して、現在の診療行為を変更するかどうか検討する。

<病理診断科・病院病理部>

○数十例の腎疾患に対して、病理組織学的診断、臨床経過、所見などを挙げ、協議や検討を行う。

○数十例のリンパ腫疾患に対して、病理組織学的診断、臨床経過、所見などを挙げ、協議や検討を行う。

○数例の解剖例を臨床的検索希望事項を含め解説、協議検討を行う。

一部抜粋

2 研修の実績

研修医の人数	185.6人
--------	--------

(注)前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
田中 篤	内科	教授	26年	
河野 肇	内科	准教授	21年	
山本 貴嗣	内科	准教授	22年	
関 順彦	腫瘍内科	教授	21年	
上妻 謙	循環器内科	教授	24年	
渡邊 雄介	循環器内科	助教	13年	
鈴木 伸明	循環器内科	講師	16年	
中尾 睦宏	心療内科	教授	25年	
有賀 悦子	緩和ケア内科	教授	29年	
大澤 岳史	緩和ケア内科	講師	15年	
黛 芽衣子	緩和ケア内科	助教	12年	
園生 雅弘	神経内科	教授	33年	
川村 雅文	外科	教授	32年	消化器外科含む
松谷 哲行	外科	講師	18年	消化器外科含む
福島 亮治	外科	教授	31年	消化器外科含む
池田 正	外科	教授	41年	消化器外科含む
松田 圭二	外科	准教授	26年	消化器外科含む
藤井 正一	外科	講師	27年	消化器外科含む
野澤 慶次郎	外科	講師	24年	消化器外科含む
佐野 圭二	外科	教授	26年	消化器外科含む
井上 幹也	小児外科	教授	18年	
下川 智樹	心臓血管外科	教授	24年	
今水流 智浩	心臓血管外科	講師	20年	
尾澤 直美	心臓血管外科	助教	10年	
太田 浩雄	心臓血管外科	助手	10年	
綾部 琢哉	産婦人科	教授	33年	
小林 茂俊	小児科	教授	28年	
小川 英伸	小児科	准教授	32年	
松下 隆	整形外科	教授	41年	
平林 慎一	形成外科	教授	40年	美容外科含む
溝田 淳	眼科	教授	31年	
篠田 啓	眼科	教授	25年	
伊藤 健	耳鼻咽喉科	教授	26年	
大西 誉光	皮膚科	准教授	28年	
山口 雷蔵	泌尿器科	病院教授	26年	
池淵 恵美	精神神経科	教授	37年	
林 直樹	精神神経科	病院教授	35年	
松野 彰	脳神経外科	教授	32年	
豊田 圭子	放射線科	准教授	29年	
笹野 仲史	放射線科	講師	13年	
竹下 浩二	放射線科	准教授	29年	
澤村 成史	麻酔科	教授	30年	

原 芳樹	麻酔科	准教授	28 年
柿沼 玲史	麻酔科	講師	17 年
坂本 英俊	麻酔科	講師	17 年
澤井 淳	麻酔科	助教	10 年
緒方 直史	リハビリテーション科	教授	23 年
花上 伸明	歯科・歯科口腔外科	助教	17 年
藤田 尚	救急科	准教授	25 年
角山 泰一郎	救急科	助手	16 年
近藤 福雄	病理診断科・病院病理部	教授	36 年

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

<p>① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況(任意)</p>
<p>・研修の主な内容(診療放射線技師) ○オペ症例検討会 術前にオペ症例の撮影・診断等の検討を行う。 ・研修の期間・実施回数 平成26年4月1日～平成27年3月31日 ・ 31回 ・研修の参加人数 47名</p> <p>・研修の主な内容(栄養士) ○NST勉強会 周術期の口腔ケア・栄養剤の胃排出・嚥下の仕組みと臨床 等 ・研修の期間・実施回数 平成26年4月1日～平成27年3月31日 ・ 3回 ・研修の参加人数 18名</p> <p>・研修の主な内容(臨床検査技師) ○医師・臨床検査技師による病理・病変に対する部内研修会 卵巣腫瘍の病理と細胞像・子宮頸部・体部腫瘍の組織診断WHO新分類に沿って 甲状腺モラル型乳頭癌・原発不明癌の一例・甲状腺濾胞性病変の細胞像 等 ・研修の期間・実施回数 平成26年4月1日～平成27年3月31日 ・ 13回 ・研修の参加人数 136名</p> <p style="text-align: right;">一部抜粋</p>
<p>② 業務の管理に関する研修の実施状況(任意)</p>
<p>・研修の主な内容(臨床検査技師) ○ISO15189関連カンファレンス ISO15189取得に向けた研修 ・研修の期間・実施回数 平成26年4月1日～平成27年3月31日 ・ 4回 ・研修の参加人数 142名</p> <p>・研修の主な内容(看護師) ○ラダーⅢ以上院内認定看護師研修及び専門領域研修 (自己導尿指導者, 呼吸ケア指導者, トリアージナース, 創傷管理指導者, 癌看護, 皮膚排泄ケア, フィジカルアセスメント, BLS指導者 等) ・研修の期間・実施回数 平成26年4月1日～平成27年3月31日 ・ 55回 ・研修の参加人数 3,437名</p> <p style="text-align: right;">一部抜粋</p>

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	病院長 藤森 新
管理担当者氏名	小笠原后香(専任・診療録管理責任者), 和久正志, 稲垣宏治, 飯塚裕之

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、 手術記録、看護記録、検査所見記録、 エックス線写真、紹介状、退院した患者 に係る入院期間中の診療経過の要約 及び入院診療計画書		総務課 診療情報管理部 各病棟 各科診療科	診療録の持ち出しは原則禁止している。やむを得ず持ち出す場合は、個人情報管理統括責任者(病院長)の承認を必要とする。持ち出しは記録を行い、保管管理する。
病院の管理 及び運営に 関する諸記録	従業員数を明らかにする 帳簿	総務課	
	高度の医療の提供の実績	各科診療科	
	高度医療技術の開発及び 評価の実績	〃	
	高度の医療の研修の実績	〃	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供 の実績	医療連携室	
	入院患者数、外来患者及び 調剤の数を明らかにする帳簿	医事保険課・医療サービス課 薬剤部	
第規 一則 号第 一掲 条の 掲げ る十	医療に係る安全管理 のための指針の整備状況	安全管理部 総務課	
	医療に係る安全管理 のための委員会の開催 状況	安全管理部 総務課	
	医療に係る安全管理 のための職員研修の実 施状況	安全管理部 総務課	
	医療機関内における 事故報告等の医療に係 る安全の確保を目的と した改善のための方策 の状況	安全管理部 総務課	
	専任の医療に係る安 全管理を行う者の配置 状況	総務課	
	専任の院内感染対策 を行う者の配置状況	総務課	
	医療に係る安全管理を 行う部門の設置状況	安全管理部 総務課	
	当該病院内に患者か らの安全管理に係る相 談に適切に応じる体制 の確保状況	患者相談室	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条二十三第一項第一号に掲げる体制確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	総務課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	総務課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	総務課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	総務課
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	総務課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	総務課
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	総務課 薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	総務課 医薬品情報センター
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	総務課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME部 経理課 中央放射線部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME部 経理課 中央放射線部
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME部 経理課 中央放射線部		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取り扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 藤森 新	
閲覧担当者氏名	稲垣 宏治、飯塚 裕之、小笠原 后香	
閲覧の求めに応じる場所	閲覧室	
閲覧の手続の概要 様式第 5 に記載の通り、「病院の管理及び運営に関する諸記録」はそれぞれの担当管理部署で適正に保管しているため、医師や歯科医師等から依頼があった場合には、全体の窓口は総務課となる。依頼用紙に記入してもらい、閲覧室内で対応する。		

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
・指針の主な内容 1. 安全管理に関する基本的な考え方 2. 安全管理委員会その他の組織に関する基本事項 3. 安全管理のための職員研修に関する基本方針 4. 安全確保を目的とした、事故報告書にもとづく改善策の立案、実施に関する基本方針 5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 6. 病院職員と患者の情報共有に関する基本方針 7. 患者と家族への説明と同意に関する基本方針 8. 患者と家族等からの相談への対応に関する基本方針 9. 安全管理対策に関する指針および安全管理マニュアルの見直しと周知の方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
・活動の主な内容 1. 安全管理対策の推進 2. 医療事故発生防止のための情報収集と教育 3. 医療事故発生防止ための対策の立案と施設・設備の改善計画の立案および実施状況の調査 4. 発生した医療事故の実情の把握と処理法の立案 5. 発生した医療事故等に関する診療録、看護記録等の調査および指導 6. 発生した医療事故に対する患者、家族等への対応状況の確認および指導 7. 発生した医療事故の原因究明の確認および指導 8. 発生した医療事故に対する再発予防対策の立案・実施・職員への周知徹底	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 12 回
・研修の主な内容 別紙参照	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・医療機関内における事故報告等の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ・その他の改善のための方策の主な内容 ○安全管理委員会において事故の事例分析および発生要因の分析を行ない、改善策を立案し、各部署・職員に対し周知徹底する	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有(5名) <input type="checkbox"/> 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有(9名) <input type="checkbox"/> 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
・所属職員：専任(6)名 兼任(13)名 ・活動の主な内容 1. 安全管理対策の推進 2. 安全管理部会のおよび臨時の安全管理委員会の開催 3. リスクマネージャー会議を開催し、安全管理委員会で決定された事項の周知徹底 4. 医療事故発生防止のための情報収集と教育 5. 院内各部署への立ち入り調査と関係書類の調査 6. 安全管理に関わる関係部署との連絡調整 7. 医療事故発生防止ための対策の立案と施設・設備の改善計画の立案および実施状況の調査 8. 発生した医療事故の実情の把握と処理法の立案 9. 発生した医療事故等に関する診療録、看護記録等の調査および指導 10. 発生した医療事故に対する患者、家族等への対応状況の確認および指導 11. 発生した医療事故の原因の究明および指導 12. 発生した医療事故に対する再発予防対策の立案・実施・職員への周知徹底 13. 安全管理委員会、安全管理部会リスクマネージャー会議の資料および議事録の作成並びに保存等の庶務に関すること	
⑧ 当該病院内に患者から安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無

医療に係わる安全管理のための職員研修の実施状況(平成26年度)

研修区分	期日	時間	参加人数	テーマ
新入職員 オリエンテーション	平成26年4月1日(火) 平成26年4月2日(水)	8:30~17:00 8:30~12:10	看護職員154名 医療技術員16名 事務職員5名	安全管理体制について
臨床研修医基礎研修	平成26年4月1日(火) ~ 平成26年4月19日(土)	9:00~17:00	研修医 29名	安全管理体制について 放射線の安全取扱総論 院内急変への対応 暴力行為への対応 医療事故防止 医薬品安全情報について インシデントレポートについて 患者確認実習 M&Mカンファについて 医療過誤および異常死の取り扱い
看護師新入職者 研修会	平成26年4月2日(火) ~ 平成26年4月17日(木)	8:30~17:00	看護職員 154名	事故防止総論 内服について 点滴、注射、酸素ボンベについて 採血・検体容器について インシュリンについて 輸液ポンプ シリンジポンプについて 転倒・転落防止対策について チューブトラブル防止対策について
臨床研修医定期研修	毎月第3金曜日	12:00-13:00	研修医 52名	オリエンテーション トピックス -インシデント・アクシデント報告事例より- 麻薬の取扱いについて クロス採血について e-Learningについて M&Mカンファ CVCカテーテル調査報告 急変シミュレーションについて 一般病棟における薬剤指示に関する新しい運用について
リスクマネージャー研修会	平成26年7月5日(土)	13:00-17:00	RM 39名 安全管理部 11名	講義:リスクマネージャーの役割について グループワーク:輸血拒否患者の対応 ロールプレイ:相談報告書への対応
新規採用医師講習会	平成26年6月2日(月)	18:00-20:00	52名 (シニアレジデント含む)	安全管理体制について
第1回医療安全および 感染防御に関する講習会 (ビデオ講習含む)	平成26年5月27日(火) 平成26年6月6日(金) 平成26年6月12日(木) 平成26年6月16日(月)	17:30-18:30	1830名	チューブ抜去防止策の検討 胸腔穿刺・ドレナージに関する院内指針 抗がん剤の漏出予防と対策 [テスト実施]
医療安全に関する講習会	平成26年10月2日(木)	17:30-18:30	714名	病理診断の理解のために 放射線検査レポート【読影レポート】確認後の承認実施 夜間・休日緊急輸血オーダーについて アルブミンの輸血部管理について
第2回医療安全および 医療倫理に関する講習会 (ビデオ講習含む)	平成26年10月21日(火) 平成26年10月31日(金) 平成26年11月6日(木) 平成26年11月10日(月)	17:30-18:30	1677名	医薬品の安全使用について 院内での急変対応について [テスト実施]
第3回医療安全および 感染防御に関する講習会 (ビデオ講習含む)	平成27年2月13日(金) 平成27年2月23日(月) 平成27年3月5日(木) 平成27年3月10日(火)	17:30-18:30	1766名	転倒・転落マニュアルについて 医薬品の安全使用について 鎮静マニュアル 改訂のポイント [テスト実施]
医療安全に関する講習会	平成27年3月3日(火)	17:30-18:30	767名	電子カルテのアレルギー表示の改訂・アナフィラキシー対応とエピペンについて 気管内チューブ抜管の統一基準について 院内での急変時対応について(よくある間違っただ対応編)
医療安全e-Learning	STEP1: 平成26年6月~9月 STEP2: 平成26年10月~平成27年3月 H26年度新入職員向け: 平成26年6月~平成27年3月	-	2156名	STEP1:特殊な薬剤の取り扱い STEP2:薬剤の取扱い H26年度新入職員向け(第1巻・第2巻)

院内感染のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
<p>・指針の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染対策に関する基本的な考え方 2. 院内感染対策のための委員会および組織に関する基本事項 3. 院内感染対策のため職員研修に関する基本指針 4. 院内感染発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針 6. 患者などに対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7. 院内感染対策のための指針および院内感染対策要綱の見直しと周知の方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・活動の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染状況を監視、調査するとともに、対策を立案し、その拡大を防止するための具体策を関係方面に提言するとともに、対策の実施について病院長および感染制御部長に具申する。 2. 周知すべき感染症の情報を院内諸方面に伝達する。 3. その他、院内感染予防のために必要な業務を行う。 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 7 回
<p>・研修の主な内容</p> <p style="text-align: center;">別 紙 参 照</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院何感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・病院における発生状況の報告等の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容</p> <p>○感染制御部・感染制御委員会において感染症発生要因の分析を行い、改善策を立案し、各部署・職員に対し周知徹底する。</p>	

院内感染対策に関する職員研修(平成26年度)

別紙

研修区分	期日	時間	テーマ
新入職員 オリエンテーション	平成26年4月1日(火) 平成26年4月2日(水)	8:30~17:00 8:30~12:30	院内感染対策について
看護師 新入職者研修会	平成26年4月4日(金)	8:30~10:00	感染防止対策
研修医基礎研修	平成26年4月1日(火) 、 平成26年4月19日(土)	9:00~17:00	院内感染対策について 個人防護具着脱実習 感染症診療について
新規採用医師 講習会	平成26年6月2日(月)	18:00~	院内感染対策について
院内感染予防 講習会 (ビデオ講習含む) 第1回	平成26年5月27日(火) 平成26年6月6日(金) 平成26年6月12日(木) 平成26年6月16日(月)	17:30~	「標準予防策と経路別予防策」 講師:高田啓介
ストップ感染デー (ビデオ講習含む) (院内感染予防講習会 第2回)	平成26年9月10日(水) 平成26年9月19日(金) 平成26年9月30日(火) 平成26年10月31日(金)	17:30~	ストップ感染デー 演題:多剤耐性アシネトバクターアウトブレイ ~その時fujitaに何が起こったか~ 講師:木下輝美(藤田保健衛生大学病院)
院内感染予防 講習会 (ビデオ講習含む) 第3回	平成27年2月13日(金) 平成27年2月23日(月) 平成27年3月5日(木) 平成27年3月10日(金)	17:30~	「年度末報告」 講師:松永直久 「EKCと院内感染」 講師:溝田淳 「ストップ感染デーの報告」 講師:杉本直也

(様式第6)

医薬品の使用に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
・活動の主な内容 「第2回医療安全および医療倫理に関する研修会」(薬剤部 渡辺正男・大竹三保) 平成26年10月21日(火) 17:30~18:30 (ビデオ講習日:平成26年10月31日(金)、11月6日(木)、11月10日(月) 17:30~18:30) 「第3回医療安全および感染防御に関する研修会」(薬剤部 中島圭佑) 平成27年2月13日(金) 17:30~18:30 (ビデオ講習日:平成27年2月23日(月)、3月5日(木)、3月10日(火) 17:30~18:30) ・医薬品の有効性・安全性に関する情報、使用方法について ・医薬品の安全使用のための業務に関する手順書について ・医薬品による事故・副作用等が発生した場合の対応について	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・手順書の作成 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ・業務の主な内容 1. 医薬品の採用・購入に関する事項 2. 医薬品の管理に関する事項 3. 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項 4. 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 5. 病棟における医薬品の管理に関する事項 6. 入院患者への医薬品使用に関する事項 7. 医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項 8. 他施設との連携に関する事項 9. 院内製剤に関する事項 10. 放射性医薬品に関する事項	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集初他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・医薬品に係る情報の収集の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ・その他の改善のための方策の主な内容 ○公的機関(PMDA等)、医薬品製造販売業者、卸売販売業者、学術誌、インターネット、新聞等から収集し、「DIニュース」等の院内への発信や研修会により従業者へ伝達。	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
② 従業員に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 ・活動の主な内容 1. 人工呼吸器 2. 人工心肺装置及び補助循環装置 3. 血液浄化装置 4. 除細動器(AEDを除く) 5. 閉鎖式保育器 6. 診療用高エネルギー放射線装置 7. 診療用放射線照射装置 } の取り扱いについて ○ 2回程度の定期研修を計画・実施し、実施状況を毎月の医療機器安全管理委員会にて医療機器安全管理責任者へ報告している。	年 62 回
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 ・計画の策定 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ○ 前年度の3月までに計画策定を行い、新年度の4月から計画を開始できるように医療機器安全管理委員会にて医療機器安全管理責任者の承諾をとり実施する。 ・保守点検の主な内容 1) 使用前、使用中、使用後の点検 2) 定期点検および年次点検(各医療機器ごとに期間を設定し、メーカー依頼している。) 3) 点検方法は各医療機器の取扱説明書を参考に実施。 ○ メーカー主催のメンテナンス講習会に参加し、修了証書を受けた者を中心に実施。 ○ 点検計画に従い実施し、毎月の医療機器安全管理委員会にて医療機器安全管理責任者へ報告している。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療開いの安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 ・医療機器に係る情報の収集の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ○ 取扱い説明書と添付文書の電子カルテへの掲示。 ○ メーカーからの情報提供やインターネットからPMDA、医療機器安全情報などを収集し、安全管理部及び安全管理委員会と連携し、電子カルテインフォメーション、医療機器研修会にて通達、報告をしている。 ・その他の改善のための方策の主な内容 ○ 毎月の医療機器安全管理委員会にて医療機器の不具合事象の報告。 ○ 安全管理部及び安全管理委員会と連携し、改善と対策をしている。	